

## 2021 年度 清教学園中・高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

清教学園の目指す人間像

- ①神を信じ誠実に仕える
- ②真理を学び賜物を生かす
- ③隣人と共に平和を築く

### 2 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上～

#### 1 教育の質的向上

- (1) 学力伸張を図る
- (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
- (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する \*Servant Leadership : 「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え

#### 2 生徒における学校生活の充実

- (1) 特別活動の充実
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 生徒支援

#### 3 環境整備力の向上

- (1) 施設の充実
- (2) 外部環境への対応
- (3) 情報の共有化と発信力の促進

### 【学校評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

学校評価アンケートの結果と分析 [2021 年 12 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>&lt;評価結果の高かった項目&gt; ※ 数値は AB の回答率 [%]</p> <p><b>【中学生】</b></p> <p>「社会（地歴・公民）」には学力向上につながる授業が多い 95.2</p> <p>「英語」には学力向上につながる授業が多い 94.0</p> <p>熱心に指導してくれる教員が多い 93.4</p> <p>生徒は充実した学園生活を送っている 93.4</p> <p>「国語」には学力向上につながる授業が多い 90.4</p> <p>「数学」には学力向上につながる授業が多い 90.4</p> <p><b>【高校生】</b></p> <p>「数学」には学力向上につながる授業が多い 91.2</p> <p>熱心に指導してくれる教員が多い 89.9</p> <p>個人情報端末は学習理解を深める [高校のみ回答] 89.3</p> <p>「社会（地歴・公民）」には学力向上につながる授業が多い 88.9</p> <p>電子黒板、プロジェクタ、書画カメラ等は学習理解を深める 88.3</p> <p>家庭への連絡は適切に行われている 87.6</p> <p>生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している 87.3</p> <p>「理科」には学力向上につながる授業が多い 86.6</p> <p>「英語」には学力向上につながる授業が多い 86.3</p> <p>図書館教育は知的関心を高めるのに役立つ 85.0</p> <p><b>【中学保護者】</b></p> <p>図書館教育は知的関心を高めるのに役立つ 96.9</p> <p>電子黒板、プロジェクタ、書画カメラ等は学習理解を深める 96.3</p> <p>熱心に指導してくれる教員が多い 95.9</p> <p>生徒は充実した学園生活を送っている 95.9</p> <p>生徒は学園で学ぶことに誇りを持っている 94.9</p> <p>規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 94.6</p> <p>生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している 94.2</p> <p>宗教・人権教育が重要視されている 93.9</p> <p>学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 93.9</p> <p>家庭への連絡は適切に行われている 92.2</p> <p>いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 91.9</p> <p>知り合いや後輩に学園への入学を勧める 91.2</p> <p><b>【高校保護者】</b></p> <p>規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 94.5</p> <p>電子黒板、プロジェクタ、書画カメラ等は学習理解を深める 93.9</p> <p>いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 93.1</p>	<p>2022（令和4）年3月26日に2021（令和3）年度の学校関係者評価委員会を開催した。この学校関係者評価委員会は、保護者会関係者、地域居住者、および学園評議員によって構成される。なお、評議員の選定については、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の3つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>&lt;意見&gt;</p> <p><b>【学識経験者】【保護者会関係者】【学園教職員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「知り合いや後輩に学園への入学を勧める」の項目では経年で評価結果が高くないように思われる。この件に関わる事柄の一つである通学路の坂道については、それをポジティブに捉えていただける仕方も必要ではないか。本校の通学路は自然観察路としての特性もあり、そうした本校のロケーションをプラスに出来るアイデアを要するのではないか。</li> <li>・評価の高まった項目については、その理由を改めて探られたい。ウィズコロナのもとでの学校の全面再開に向けて、良い学校生活を生徒たちにもたらすためのヒントがあると思われる。</li> <li>・安全対策に関して教職員には心配がある模様である。具体的な懸念事項をさらに探られたい。</li> <li>・設備投資についてもさらに検討を進められたい。</li> <li>・安全対策については社会的にも注意喚起が増えている。安全対策の一環として車輛の出入りについてもコントロールをされたい。</li> <li>・「将来のための学び」に関する項目での評価結果が気にかかる。生徒たちの求めること、また家庭で行われていることも踏まえて対応を進めてほしい。</li> <li>・キャリア教育については、コロナ禍により学外とのつながりが少なかったということも評価結果に反映してしまったと思われるが、ウィズコロナのもとでの学校生活の全面的な再開の中で、さらなる努力をなされたい。</li> <li>・PTAによる職業紹介誌「Navi」にはこれまで同様に本校のキャリア教育の重要な部分を担っていただいているが、コロナ禍の状況が好転していけば、以前に実施されていた職業紹介イベント「Naviの日」という行事も復活していくのが良いのではないかと。運営上の変動もあるが、そうした学習機会は生徒たちにとって重要である。</li> <li>・「部活動」に関わる項目については、生徒たちの受けとめ方というのにも気にかかる。コロナ対策上での制約も残る中、部活動をしたいという生徒の気持ちが満たされていないということもありえよう。</li> </ul>

熱心に指導してくれる教員が多い	91.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的には、少子化による部員の減少、働き方改革の流れもあり、これまでのような仕方での部活動運営が難しい状況になっているとされる。公立学校では、顧問教諭の転勤等ですぐに廃部になる例も多くあるが、本校では、生徒たちにおける活動機会を可能なかぎり維持できるように努めている。学校運営における各取り組みの持続性については、これまでの仕方だけでは多々難しい課題も出てきていると思われるが、次世代のために必要なことが何であるか、引き続き考えていってほしい。</li> </ul>
宗教・人権教育が重要視されている	91.9	
生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している	91.4	
生徒は充実した学園生活を送っている	90.8	
個人情報端末は学習理解を深める〔高校のみ回答〕	90.6	
家庭への連絡は適切に行われている	90.4	
<b>【教職員】</b>		
熱心に指導してくれる教員が多い	100.0	
生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している	100.0	
家庭への連絡は適切に行われている	100.0	
生徒は充実した学園生活を送っている	97.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>経年変化を確認しながらの学校評価アンケートの実施となっているが、一部の設問については内容を変えるということはないのか。時代状況から見て、トイレや自習室に加え、教室環境について問うてもよいのではないか。</li> </ul>
いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる	97.2	
悩みや相談に親身になってくれる教員がいる	94.4	
保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされている	91.7	
<評価結果の比較的低かった項目> ※ 数値はABの回答率〔%〕		
<b>【中学生】</b>		
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	69.9	
姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている	71.1	
P T A活動が盛んである	71.1	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	74.1	
公平な教員が多い	75.3	
知り合いや後輩に学園への入学を勧める	75.3	
将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている	75.3	
悩みや相談に親身になってくれる教員がいる	75.3	
<b>【高校生】</b>		
知り合いや後輩に学園への入学を勧める	58.6	
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	60.6	
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	67.4	
ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立つ	68.7	
P T A活動が盛んである	72.6	
公平な教員が多い	73.3	
生徒は学園が目指す人間像（真理を学び賜物を生かすなど）を理解している	73.6	
災害や不審者から生徒の身を守ることができるように配慮している	73.9	
姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている	74.3	
トイレ設備が整備されている	74.6	
<b>【中学保護者】</b>		
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	70.5	
進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている	75.3	
将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている	75.9	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	78.0	
<b>【高校保護者】</b>		
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	66.8	
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	70.3	
食堂は利用しやすい〔高校のみ回答〕	71.9	
授業の理解が不十分な時に、面倒をよく見てくれる	74.7	
姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている	76.6	
<b>【教職員】</b>		
部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている	47.2	
食堂は利用しやすい〔高校のみ回答〕	52.8	
災害や不審者から生徒の身を守ることができるように配慮している	55.6	
個人情報端末は学習理解を深める〔高校のみ回答〕	63.9	
宗教・人権教育が重要視されている	66.7	
将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている	69.4	
生徒は学園が目指す人間像（真理を学び賜物を生かすなど）を理解している	72.2	
塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく	72.2	
学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている	75.0	
<全体総括>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「熱心に指導してくれる教員が多い」という項目がいずれの部門でも高い評価をいただいていることには、「さすが清教学園」という思いを持たせていただいた。良い先生方に教えていただけるというのは、学園の変わらぬ良さだと思う。これからもこの項目が高い評価をいただき続けられるようにされたい。</li> </ul>
ウィズコロナのもとに学校生活が概ね再開された中、各教科の学習活動に対して高い評価がなされたのは、授業運営上のさまざまな工夫が功を奏したと思われる。他方で、課外活動も含めた全体的な生活バランスや達成感という点では、コロナ対策上で依然として残る諸制約もあって、負担感を伴ったものとなっていたのは否めなかった。また、グローバル教育では、コロナ禍の影響で交流再開には至らず、今後状況の好転が望まれる。		

以上

本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	<p>(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進</p> <p>(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫、および生徒の自主的な学習姿勢の育成</p>	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. バランスの取れた教育活動を通じて、生徒の自律・自立を促し、自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p> <p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p> <p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p>	<p>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</p> <p>ア. 建学の精神に関する理解、及び宗教・人権教育が重要視されているかに関する評価結果が、どの評価対象枠においても80%以上 (前年度→前者については生徒：中84.7、高82.1 保護者：中85.2、高89.2 教員：61.9 後者については生徒：中86.1、高90.8 保護者：中89.6、高93.5 教員：76.2)</p> <p>イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→生徒：中90.3、高87.3 保護者：中95.3、91.1 教員：88.1)</p> <p>ウ. 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実しているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上 (前年度→生徒：中77.8、高81.2 保護者：中83.2、高85.4 教員：76.2)</p> <p>エ. 学力向上につながる授業が多い(主要5教科平均)および電子黒板・書画カメラ・私物情報端末の学習効果に関する評価結果がどの生徒においても80%以上 (前年度→【前者】生徒：中91.7%、高88.6%【後者】生徒：中84.7%、高88.2%)</p>	<p>建学の精神の理解については、中学生84.3%、高校生73.6%、中高保護者がそれぞれ87.8%、85.1%、教員が72.2%で、高校生と教員において80%に達していない。昨年度に続き、コロナ禍で合同礼拝や宗教行事でも参集できなかったことが多少なりとも影響していると思われる。宗教・人権教育においては、中学生88.6%、高校生82.7%、中高保護者がそれぞれ93.9%、91.9%、教員が66.7%で、教員においてのみ80%に達していない。その他の評価対象枠が全て80%を超えていることから、教員が求める評価基準が高いのかもしれない。(△)</p> <p>中学生93.4%、高校生81.4%、中高保護者がそれぞれ95.9%、90.8%、教員が97.2%で、コロナ禍により諸行事が中止になったり、制限が多く十分な活動ができない状況であったりしたにもかかわらず、全評価対象枠において80%以上の高評価が達成された。賜物を生かす教育の実践を継続して行きたい。(○)</p> <p>中学生71.1%、高校生74.3%、中高保護者がそれぞれ81.4%、76.6%、教員が77.8%で、前年度に引き続き比較的低い数値が多い結果となった。コロナ禍の影響が最も大きく表れる分野であり、仕方ない部分もあるかもしれないが、グローバル教育においては先進的で、様々な取り組みに対する高評価をずっと獲得していただけに残念なことである。ウイズコロナの時代における国際交流活動の在り方を検討する必要があると思われる。(△)</p> <p>学力向上につながる授業が多いという評価(主要5教科平均)については、中学生はほぼ前年度並みで、平均で91.6%という結果であった。前年度は英語・理科が80%台であったが、今年度は理科のみが80%台であった。全教科90%以上を目指したい。高校生は前年度からやや低下し、85.7%であった。前年度は国語・英語が80%台であったが、70%台の教科はなかった。今年度は英語・理科・社会が80%台であり、国語は70%台であった。90%台は数学のみであり、さらなる研鑽が必要である。電子黒板等の効果について、中学生は89.2%と、前年度より上昇した。今年度は中1でiPadを導入した初年度であり、それが満足度向上に影響している可能性がある。次年度は中学全学年で情報端末を導入するので、効果的な活用とさらなる満足度の向上を図りたい。高校で導入5年目となる私物情報端末については、前年度よりさらに上昇し、89.3%となっている。コロナの影響でオンラインの活用が進んでいる流れを止めることなく、さらなる活用を進めていきたい。(△)</p>

<p>1 教育の質的向上</p>	<p>(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化</p>	<p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p> <p>カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。</p> <p>キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。</p>	<p>オ. 「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」「理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→【前者】生徒：中70.8%、高69.0%、保護者：中70.1%、高66.4%【後者】生徒：中83.3%、高86.0%、保護者：中77.9%、高75.3%)</p> <p>カ. 「図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中88.9%、高83.8%、保護者：中94.6%、高86.7%)</p> <p>キ. 「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→【1つ目】生徒：中79.2%、高78.2%、保護者：中75.5%、高81.2%【2つ目】生徒：中77.8%、高83.8%、保護者：中73.5%、高85.0%【3つ目】生徒：中70.8%、高80.8%、保護者：中73.8%、高82.0%)</p>	<p>「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」に関しては、中学生76.5%、高校生67.4%、中学保護者70.5%、高校保護者66.8%と、80%には遠く及ばない。この項目の評価上昇は緊急の課題であると言える。「理解が不十分なときに面倒をよく見てくれる」に関しては、中学生80.1%、高校生80.8%、中学保護者82.4%、高校保護者74.7%と、保護者の評価が低い傾向が見られる。理解が不十分な生徒に対して、授業や補講・追試などに加えて、Google Classroomを使った指導を推進することで、さらなる満足度の向上が図れるのではないかと考える。 (△)</p> <p>本校図書館「リブラリア」の積極的な取り組みが成果を上げており、中学生89.2%、高校生85.0%と高評価であった。保護者からも中学保護者96.9%、高校保護者86.4%と高く評価されている。(○)</p> <p>「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」では中学生74.1%、高校生76.5%、中学保護者78.0%、高校保護者80.2%と、多くが80%を下回った。「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」では中学生75.3%、高校生80.8%、中学保護者75.9%、高校保護者82.7%と、中学で80%を下回った。「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」では中学生69.9%、高校生76.5%、中学保護者75.3%、高校保護者81.5%と、多くが80%を下回った。これらから、特に中学において早期からの進路学習を充実させること、そして中高とも、従来の偏差値重視・大学入試重視の進路観だけでなく、将来を明確に見通すことができない時代において生き抜くための進路観を身に付けるための取り組みを進めることが重要だと考える。 (△)</p>
----------------------	---------------------------------	---	---	---

2 生徒 にお ける 学 校 生 活 の 充 実	(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化	ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。  イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。	ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中86.1%、高83.4%、保護者：中90.3%、高85.9%、教員：85.7%)  イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても、80%以上 (前年度→生徒：中69.4%、高64.2%、保護者：中86.2%、高75.5%、教員61.9%)	コロナ禍で宿泊行事は、中3宿泊行事の1度を除いて中止になり、その他の多くの行事も中止・変更になった。他校では感染状況悪化の中でも行事を強行した例もあり、高校生、教員の評価が80%未満となった。生徒、教職員が安全であることを第一に考え、次年度も感染症対策を徹底し、工夫を重ねて生徒が輝き賜物を生かす教育・行事運営を実践したい。(△)  教職員の評価が低下し、全体的には前年度と大きな変化は無く、引き続き評価は高くなかった(中学生保護者を除き80%未満)。コロナ禍であるが、部活動も徐々に普通のペースに戻りつつあるので、ガイドラインの再検討も行いつつ、時代にふさわしい「文武両道」を、はじめを大切にしながら、部活動の成果と学習面における指導との両輪が揃う方法を、今後も模索しなければならない。(△)
	(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化	ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。	ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」・「生徒が問題行動を起こしたときにきちんと対応している」に関する評価結果の平均値がすべての評価対象者枠において80%以上 (前年度(平均値)→生徒：中83.4%、高83.6%、保護者：中90.1%、高93.4%、教員88.0%)	今年度も保護者・教員から90%超の高い評価を得た。また、中学生・高校生からも80%を超える評価となっている。現状に満足せずに、全ての生徒が安全で安心して過ごせる学園に発展できるよう、HRや面談、中学はデイリーノート指導などを通して、生徒の日々の様子を注視し、指導することを大切にしていきたい。(○)
	(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進	エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。  オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。	エ. 「保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上(前年度→生徒：中84.7%、高85.2%、保護者：中87.6%、高89.0%、教員：88.1%)  オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上(前年度→生徒：中77.8%、高81.2%、保護者：中81.5%、高86.9%、教員92.9%)	前年度も概ね高評価であったが、今年度は全ての評価対象者枠において80%超の高い評価となっている。コロナ禍における学園の感染症対策についての取り組みが評価されたと考える。保健室が発行している「保健だより」や生徒や保護者への丁寧な対応なども効果的であったと考える。保健授業が果たしている役割も大きいと言える。(○)  生徒における評価は中学75.3%、高校80.5%、保護者における評価は中学88.1%、高校83.5%、中高教員の評価は94.4%であり、例年このような生徒と教員の評価の乖離が見られる。中3の評価が60.6%と低くなっているのと対照的に、高3の評価が87.1%と高くなっている。これも例年見られる傾向である。(△)

3 環境整備力の向上	(1) 施設の充実	ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。	ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中76.4%、高82.1%、保護者：中83.2%、高86.0%、教員85.7%)	前年とは異なり、中学では83.1%と高評価であるが、高校ではやや低く78.2%となる。高3では80.0%と高評価となった。ラーニング commonsのルールがわかりにくいという意見や、自習室で私語をする生徒がいて、うるさくて集中できないという意見が散見された。生徒たちがどのような自習室を求めているのか、学年の特性に合わせた自習室を開室・運営すべきである。(△)
	(2) 外部環境への対応	イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。	イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 *高校のみ (前年度→生徒：79.0%、保護者：71.0%)	コメントには値段が高いこと、メニューが少ないこと、量が少ないことへの不満が散見されるが、利用者は概ね満足しているようである。感染対策として席を減らして営業しているため、混み合うことも評価を下げている可能性がある。(△)
		ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。	「災害や不審者から生徒の身を守ることができるように配慮している」に関する評価が80%以上は中学生(81.3%)、中学保護者(88.1%)、高校保護者(86.0%)。高校生は73.9%、教員は55.5%。前年度→生徒：中91.6%、高82.9%、保護者：中89.2%、高89.7%、教員：66.6%)	中学生と保護者において高い数値をいただいている。高校生においては80%台を割り込んだ。教員においては数値の低下が顕著である。昨年度に続いて新型コロナウイルス感染症予防対策に追われた。PTAの援助を受けて教室内感染予防機器を拡充させることができたが、完全な防御であったわけではない。また、通学路、正門以外の門の整備を進めることが課題か。
	(3) 情報の共有化と発信力の促進	エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。	「家庭への連絡は適切に行われている」に関する評価結果が、中学生89.8%(前年度93.0%)、高校生87.6%(91.7%)、中学保護者92.2%(90.2%)、高校保護者90.4%(90.0%)、教員100%(95.3%)	家庭との連携に関して高い評価を得ている。Google Classroomによる保護者への連絡・手紙の配布が定着したことにより連絡漏れがより少なくなったことが評価されている。
		オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。	「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立つ」に関する評価結果が、中学生76.5%(前年度79.2%)、高校生68.7%(74.3%)、中学保護者89.5%(91.6%)、高校保護者87.9%(91.2%)、教員83.4%(73.8%)	昨年度に学園ホームページを刷新し、内容の充実はもとよりデザイン、見やすさ、明るさ、機能性の向上に努めている。学園の教育理念や学校生活の様子について発信している。ただし、新型コロナウイルス感染症蔓延予防のため、コンテンツとなるべき学校行事が大幅に縮減されたことが生徒における評価の低下に繋がっていると考えられる。